

令和5年度下関市立歴史博物館協議会 議事録

1. 開会

事務局より開会を告げる

2. 教育長挨拶

皆様こんにちは。教育長の磯部でございます。

本日は、ご多忙のところ博物館協議会にご列席賜りまして、ありがとうございます。

歴史博物館は、昨年11月をもって開館から7年を迎えております。この間、展示を中心に様々な活動をし、たくさんの市民の方々に喜んでいただき、好評を得ております。これもひとえに皆様方の深いご理解、ご支援のお陰だと心から感謝申し上げます。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、経済活動等も一気に活発になっているように思います。当然、下関にもたくさんの方が来られるようになりました。

今年度は、これまでに特別展2本と企画展3本を開催し、来週からは企画展「清末毛利家一毛利一族を救った知られざる大名一」の開催を予定をしております。私は、清末で生まれて育ちましたので、特に個人的にも楽しみにしているところでございます。

下関市では今、教育の現場に向けて、子供たちがワクワクする魅力ある活動を取り組んで欲しいと要望しております。その中でも特に、歴史というものをしっかりと楽しむ活動をしてほしいと要望しておりますので、博物館に各学校の子供たちがたくさん来てくれることはもちろん、保護者の方、地域の方にも来ていただければなというふうに、期待をしているところでございます。

さらに、展示の他に、中学高校大学の研修等も受け入れておりますし、出前講座などを通じて、博学連携・教育普及を推進し、地域における学びに貢献できるように努めて参りたいというふうに考えております。

今後とも職員一丸となって知恵を絞り、下関の歴史情報の発信継続に努め、歴史博物館の存在意義を高めてまいります。

協議会委員の皆様には、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

また、本日は、忌憚のないご意見をいただきまして、活発な場となりますよう、お願い申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

3. 会長挨拶

富永会長

皆さんこんにちは。本日は、大変お忙しい中、そしてお足元の悪い中、協議会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、今年は、新年幕開けと同時に能登半島の地震や様々な不幸なことが起こり、どんよりとした曇囲気に包まれているのが現実ではないでしょうか。しかしながら、甲辰という今年は、今まで誠実に積み上げてきたことが、実を結んで花開くという年であるそうです。非常にどんよりした空気ではありますが、2月3日が節分、1つの節でありまして、そして昨日が立春ということで、春のはじめ、要は新しい始めは2月4日からではないかなというふうに私は思っております。そういう意味におきましても、また気分を新たに皆さんで力を合わせて頑張っていきたいなと思っております。

私は、観光協会の会長をしておりますので、観光のお話をちょっとさせていただきますが、皆さんご存じのように、先日、ニューヨークタイムズに掲載された今年に行くべき52ヶ所というところに、山口市が選ばれております。山口市は、戸惑ってるところがあるみたいなのですが、五重の塔であったり、様々な歴史のある町であります。おそらく外国人から見たら、京都がオーバーツーリズムでいっぱいになっているので、そこに似た町ということで山口市が選ばれたというところでもあります。山口市にインバウンドのお客さんが来られますと、自然的に、山口市から山口県内へというところで、下関市に必ずお客さんが来るというところで、この観光コンベンション協会では、インバウンド対応を以前からやっておりましたので、これに合わせてちょうどいい感じになってきたのかなと思っております。

その中で考えますと、下関というのは、本物の町であるとよく言われます。本物の歴史文化があって、そして本物の食があってというところで、特にこの本物の歴史文化というところにおきましては、この歴史博物館においては、まさに本物の資料があるというところ、よく博物館はレプリカが中心となることが多いのですが、実際、この長府にはたくさんの本物の歴史がある、本物の資料があるというところを、ぜひ協議会の皆様は誇りを持っていただいて、いろんな人たちにお伝えいただければなというふうに思っております。本物の町のこの本物の歴史博物館が下関にある限り、下関は非常にこれからも伸びる町だというふうに思っておりますので、是非とも皆様方のご協力をいただければなと思っております。

教育長のお話にもありましたように、コロナもある程度落ち着いてまいりまして、町が完全に復活しています。本当に勢いがついてきた年の初めではないかなと思っておりますので、是非ともこれからもどうぞよろしく願いたします。

今日は何点か議事がございますので、皆様の忌憚のないご意見をいただい

て、すばらしい協議会にしたいというふうに思っておりますので、よろしくご協力をお願いします。

4. 議事

会長

それでは議事に入りたいと思います。令和4年度の事業報告を事務局より説明をお願いいたします。

館長

博物館長をしております古城と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは令和4年度事業について報告をさせていただきます。

資料の2ページをお開きください。

最初に、歴史博物館管理運営業務ですが、令和4年度の決算額につきましては、6,130万6千円となりました。事業内容は、歴史博物館、旧長府博物館、日清講和記念館の管理を行うもので、主な経費は、会計年度任用職員の報酬や光熱水費の他、施設及び設備の管理に必要な委託料等になります。職員は14名で、内訳は正規職員が7名、会計年度任用職員が7名で、このうち学芸員の有資格者は4名です。

続きまして、展示業務です。決算額は1,336万2千円で、総観覧者数は19,406人でした。令和3年度より約15%増加しております。

常設展示では、下関の古代から近代を紹介するとともに、テーマ展として、下関戦争を通年で取り上げ、観覧者数は10,337人でした。

次に、企画展示です。別紙1をお開きください。ご覧のとおり企画展示は、全部で4つのテーマで開催し、総観覧者数は6,239人でした。別紙1向かって右側の欄に関連講座その他のイベントを記しておりますが、それぞれに展示解説会を行い、また、6つのテーマの関連講座を開催、さらに長府毛利家遺品公有化事業の完了に伴う展覧会では、大手前大学の石畑匡基先生による特別記念講演会を生涯学習プラザにて開催させていただきました。イベントの延べ利用者は974人で、展示解説が291人、関連講座の聴講者が564人、記念講座が119人でした。

特別展示につきましては、別紙2をお開きください。ご覧のとおり2つのテーマで特別展示を開催し、「歌を詠む武士」が947人、「戊辰戦争—長府藩報国隊の軌跡」が1,883人で、合計2,830人でした。4つのテーマで開催した関連講座には、のべ296人の方が聴講され、展示解説には177人の方が参加されました。

続いて、資料の3ページをお開きください。展示関連講座とは別に、3つの歴史講座を開催させていただきました。こちらは、別紙3にありますとおり、延べ229人の方が耳を傾けてくださいました。

続きまして、別紙4をお開きください。児童・生徒向けの夏休み自由研究講座として「歴史博物館学芸員の1日体験」を開催し、54人の方にご参加いただきました。

3ページにお戻りください。10行目あたり。日清講和記念館につきましては、50,292人の観覧者数となりました。前年度からは飛躍的に伸び、6万人から7万人ございましたコロナ前の観覧者数に復調の兆しが見えました。

続いて、3.資料収集保管業務です。本事業の決算額は152万1千円でした。

収集業務につきましては、別紙5をお開きください。令和4年度の収集資料は、寄贈が863点、寄託が95点でした。

保管業務につきましては、例年どおり温湿度の管理、空気環境の確認、消毒・燻蒸などを実施いたしまして、資料の保全に努めました。

続きましては、調査研究・普及業務です。決算額は44万1千円でした。

歴史博物館では、紀要と年報を隔年で製作していますが、令和4年度は年報を作成し、博物館活動について広く報告させていただきました。

普及活動につきましては、全部で27の出前講座を引き受けさせていただきました。依頼のありました団体等は、別紙6に記載しております。また職場体験学習につきましては、4ページをご覧ください。長府高校の生徒4名と山の田中学校の生徒2名を引き受けさせていただきました。

次に、③学芸員資格取得に必要な博物館実習につきましては、筑紫女学園と立命館大学から各1名ずつの実習生に対応いたしました。また、④学校職員の研修ですが、王司小学校の教員2名の研修を引き受けております。⑤その他の協力連携は、学校を含む14の団体から歴史関連の協力依頼がありました。詳細は、別紙7のとおりとなっておりますが、地域の団体や高校・大学などの活動に協力させていただきました。

次に、4ページの(3)博学連携ですが、学校行事による児童生徒の来館につきましては、別紙8をご覧ください。小・中・高校に加え大学の利用もあり、17校552名ございました。令和元年度コロナ前は23校806名、令和2年度は7校280人でありまして、令和3年度は15校542名と、だんだんと元に戻っております。

次に、②のICTを活用した博学連携事業につきましては、養治小学校と連携して実施させていただきました。詳細は別紙9にございますが、養治小学

校の4年生児童が地域の歴史を学ぶに際し、事前学習として博物館職員が講座を行い、次に史跡見学で説明するもので、この際、事後学習用として博物館資料を用いた動画を制作し、Youtubeにて利用できるようにしました。

③はアナログですが、川中中学校のワークスペースにおいて、パネル展示を行いました。この活動は、歴史博物館だけでなく市内の博物館・美術館が協同で実施したもので、校内が自然史・歴史・芸術に関する情報で満たされました。

最後に、5. その他の項目ですが、以前博物館の収集審査員を務めていただいていた利岡俊昭先生より書籍の寄贈を受けております。また、デジタル化が進む中で、SNSを用いた情報発信を行うことは勿論、令和5年3月よりキャッシュレス決済の導入を行いました。

令和4年度事業報告は以上です。

会長

ただいま、令和4年度の事業について事務局よりご報告がございましたが、ご質問並びにご意見ございましたらお願いをいたします。いかがでしょうか。

委員

確認なんですけれども、資料の収集業務で、令和4年度は寄贈・寄託での収集ということなんですけれども、これは購入費の予算はついてなかったんでしょうか？

館長

ないです。

委員

わかりました。

会長

他にございますでしょうか。それではないようでしたらお諮りをいたします。ご承認いただけましたら拍手をお願いいたします。

ありがとうございます。それでは続きまして、(2)令和5年度の事業経過報告をお願いいたします。

館長

それでは、令和5年度事業経過報告につきましてご説明申し上げます。

資料5 ページをお開きください。

1. 歴史博物館管理運営業務につきましては、予算額が6,065万1千円となっております。職員は14名で、内訳は正規職員7名、会計年度任用職員7名、職員のうち学芸員有資格者は4名で、令和4年度と同数です。

次に、展示業務ですが、予算は1,200万4千円となっております。12月末時点での総観覧者数は、15,529人で、前年同月より若干多くなっております。このうち常設展示は8,362人です。

企画展示につきましては、別紙11をご覧ください。年度をまたいで開催した「英雄の素顔」から、現在開催中の「平安時代と王朝文学」までを開催し、観覧者数は4,174人となっております。令和5年度も企画展示に関連した講座・イベントを開催し、参加者は682人、このうち講座を聴講された方が348人、街歩き参加者が55人、展示解説参加者が279人となっております。

特別展示につきましては、別紙12をご覧ください。令和5年度は「花凛々と一関ゆかりの女性たち」及び「巖流島ーそして島は決闘の聖地となった」の2つの特別展示を開催いたしました。観覧者数は、「花凛々と」が1,140人、「巖流島」が1,853人でした。関連のイベントとして、それぞれ講座と展示解説を実施し、のべ308人の参加がありました。

続きまして、6ページをご覧ください。単体の歴史講座につきましては、2つのテーマ計画し、現在までに1テーマが終了して、55人の聴講者がございました。また、街歩きに55人、児童生徒を対象とした「歴史博物館学芸員の1日体験」に19人の参加がございました。

日清講和記念館につきましては、12月末現在で68,729人の観覧者数がありました。このまま平年並みの観覧者があれば、令和5年度の観覧者数は8万人を超える可能性があります。

次に、資料収集保管業務ですが、このうち収集業務につきましては、別紙15、別紙16をご覧ください。購入は、別紙15にございます三吉家資料400件720点です。三吉家資料は、坂本龍馬や中岡慎太郎といった著名人の手紙などが含まれた資料群で、評価額は1億3,008万5千円でしたが、6,000万円で公有化させていただきました。代金は、令和5年から7年にかけて3分割で支払いますが、既に全資料の所有権は、下関市に移っております。寄贈・寄託の予定資料につきましては、別紙16のとおりとなっております。来る3月8日に収集審査を実施し、資料の鑑定・鑑識や収集の可否等をご審議いただく予定です。

資料の保管業務につきましては、例年同様に温湿度の管理や空気環境を確認するとともに、燻蒸・消毒により殺虫殺カビ等の対応を行いました。

続きまして、調査研究・普及業務につきましては、本年度は研究紀要を製作して学芸員の研究成果を広く発信する予定です。また、教育普及活動として、別紙17のとおり、予定も含めまして16件の出前講座を引き受けております。

続いて、資料の7ページをお開きください。②の職場体験学習につきましては、長府中学校から4名、長府高等学校から3名、下関商業高校から4名の生徒を受け容れました。③の博物館実習については、山口大学・東亜大学の2校から3名を受け容れ、④のその他の協力・連携事業につきましては、15の団体から歴史に関連した事業への協力依頼があり、いずれも対応させていただきました。

次に、博学連携のうち、①学校行事による来館者数は、別紙19をご覧ください。16校542名の方の来館がありました。また、本年度は小学校で活用できるコンテンツ動画等の作成に注力しており、現在 関野委員にご指導を仰ぎながら作成にあたって居るところです。さらに、川中中学校ワークスペースへのパネル展示も、展示物を変えながら継続しております。

5. その他の項目ですが、令和4年度同様、利岡俊昭先生ご夫妻より、専門書をご寄贈いただき、また SNS による情報発信についても継続しております。

最後になりますが、改正博物館法が令和5年4月1日に施行され、博物館の登録手続きなどが変更されました。従前から登録をしている当館は、現在の改正博物館法下では登録を受けたとみなされている状態で、既定の報告を県教育委員会に報告したところですが、令和10年までに登録するか否かを選択しなければならない状況にあります。市内各館及び国や県の動向、登録のメリットなどを鑑みながら、対応を考えていく所存です。

以上令和5年度の事業経過報告につきましてご説明申し上げました。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

会長

ただいま、令和5年度の事業経過について、事務局よりご説明がございましたが、これにつきまして何かご質問ご意見ございますでしょうか。

委員

職場体験学習では、毎年生徒がお世話になっております。

職場体験学習は、各中学校で行っているんですけども、行く場所を見つけるのが大変難しいという状況で、歴史博物館では、どれぐらい引き受けることができますか？人数的に。1週間、1ヶ月に何組とか。

学芸員

引き受けの依頼は、4名程度であれば、可能と回答させていただいております。時期が重ならなければ、いつでも受け入れはできると思います。

委員

子供達がここへ来させていただいて、「すごく、よかった」というふうに感想を言っておりますので、いろんな中学校の生徒がこちらに職場体験で来れるように、アナウンスをしていただけるといいかなと。あと、出前講座も行っておられるみたいですから、それも宣伝されたらいいかなと思いました。

会長

ありがとうございます。
他にございますでしょうか。

委員

入館者数がコロナ前に戻ってきたように、この数字を見て感じておりますけれども、どういう層の来館者が、増えてきたのかなと。そのあたりは何か、気づきがありますか。

館長

日清講和記念館は、唐戸地区にたくさんお客さんが来られているようで、すごく数字が上がってるんですが、歴史博物館の方は、まだ以前ほどではない状況で、令和2年の3月ぐらいからコロナが取り沙汰されるようになったんですが、令和元年度の入館者数は31,155人で、昨年度が19,406人、今年度がこのままいくと同じぐらいの19,000人から20,000人なので、ちょっとまだまだ戻ってきてないんですね。

この地域は、昔は、日本人の団体のお客さんがたくさん来られていたんですが、そのあと今度は、クルーズの団体のお客さんが多くなったんですけど、今は、団体の姿があまり見えなくて、時折、韓国からの30人ぐらいのお客さんが散策はしてるんですが、なかなかここまで入って来られないような状況です。お客さんが戻ってくるには、もう少し時間がかかるのか、もう長府地区にはあまり魅力を感じないのか、その辺はちょっとわからないんですが、まだまだコロナ前の数字には、戻ってない状況でございます。

委員

博物館の周辺はそんなに変わってないように見えますけど、ちょっと離れたところに行くと、結構マンションなんか建って、長府も変わったなっていうふうに感じてます。長府地区に人が来るように、これは歴史博物館だけの問題ではなく、市として何か考えてもらえるようになればいいですね。

会長

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

それでは、(2)令和5年度の事業経過報告をお諮りいたします。

ご承認いただければ拍手をお願いいたします。

それでは、(3)令和6年度の事業計画について、ご説明をお願いいたします。

館長

令和6年度の事業計画についてご説明申し上げます。

資料は8ページ・9ページです

まず管理運営業務ですが、例年どおり施設や設備の管理に努めていきます。職員数は変更なしと考えております。

次に、展示業務ですが、通常の間設展示に加え、特別展示として、「天下人との邂逅ー海峡の戦国史第3章」と「下関戦争160年記念 攘夷と海峡」を開催する予定としております。

企画展示につきましては、年度を跨いで開催する「清末毛利家」に加え、「幕末群雄伝」、「田上菊舎」、「毛利元敏」、「神と仏の物語」の4本を開催する予定としております。

資料収集保管業務につきましては、例年同様本市ゆかりの資料を収集し、適切な管理に努める所存です。

調査研究・普及業務につきましては、年報を作成して当館の活動を広く周知し、また、博学連携やイベントを通して郷土を愛する気持ちを育むとともに、本市の歴史への関心が高まるよう努めて参りたいと考えております。

最後になります、その他のところですが、昭和12年に建設され、現在登録有形文化財となっております日清講和記念館につきましては、観覧者の安全と施設の保存管理を前提に、耐震診断を実施し、補強計画を策定する予定としております。こちらが、例年にはない事業でございます。

令和6年度の事業計画は、以上でございます。

会長

ただいま、令和6年度の事業計画についてご説明ございましたが、これに

つきまして何かご質問ご意見ございましたらお願いをいたします。

委員

下関の歴史博物館の学芸員の方々は、非常によくやってらっしゃるので、県内の博物館の中でもトップを走っていらっしゃるというふうに思っていますし、個人的には「巖流島」とこの「清末毛利家」、非常に企画が良くて内容もすごく良いので、非常にいいと思ったんですが、この事業報告の中で、ちょっとご検討いただけたらどうかという点があります。それは、データを例えば、過去5年間の数字を積んで資料に記載するような形とか。個人的には、数値にこだわってどうこういうのはあまりよろしくないと思うんですが、先ほど委員の方々も、前年度から増えたのか増えないのかとおっしゃっていますし、オープンになってる数字なので、一応過去3年間程度の情報をお示しになった方がいいのかなと思います。

もう1つは、博物館の中で、調査研究は非常に大事ですので、学芸員がどういう調査研究をしたとか、論文を書いたとか、外部の委員を引き受けているとか、社会貢献とか、そういったところも情報を出した方が良いのではないかと思います。もちろんこれは、個人の活動ですので報告する義務はありませんので、また学芸員の中でご検討していただけたらと。今の資料だと、調査研究のところは、年報と教育普及だけになっちゃうんですけど、やっぱり博物館の学芸の専門職として、どういう調査研究をしているのかというのがもっとわかると良いと思います。以上です。

会長

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。それではお諮りをいたします。令和6年度の事業計画、ご承認いただきましたら拍手でお願いをいたします。ありがとうございます。

最後の議事(4)その他に移ります。博物館の運営について何かご意見、ご質問等、すべてを含んで、関連であれば何でも結構でございますが、何かございますでしょうか。

委員

長府大好きな人間なので、どうぞよろしくお願いいいたします。

先ほど教育長や会長が言われたように、長府は、本物の歴史のある素晴らしい場所、そして、こういう素晴らしい博物館もあります。長府にはいくつも学校があるんですが、その中の生徒で、ここに足を運んだ生徒が何人いるかなと思うんですよね。

素晴らしい博物館があるという長府のメリットを、学校やPTAなどで広めていただいて、親子で博物館に来てもらえるようになればと。そして、それで興味を持てば、その子が学芸員になりたいとか、歴史の勉強にも興味を持ってもらえるんじゃないかなと。先生たちも色々と大変でしょうから、親の方からも思っ、私もいろいろと呼びかけしているんですが、なかなか形にはならない。

この協議会を通して、お忙しいでしょうが、皆様にも何か実行していただき、長府の子供たちに、1回はここに足を運んでもらって、素晴らしい資料を観て、長府の良さを知ってもらい、長府を誇りに思ってもらいたいと思います。

会長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

委員

いい報告なんです。歴史博物館は、館として山口県博物館協会の理事を引き受けていただいております、そういう博物館協会の中での活動もきちんとしていただいていることを、委員の皆さんにご承知いただきたい。去年ですね、日本博物館協会中国支部の研修会と、山口県博物館協会の研修会を、合同で下関で開催をいたしまして、それを古城館長をはじめ、地元の下関地区の方々が、お引き受けをいただきまして、博物館協会の中でもそういう役割をきちんと果たしていらっしゃるということをご報告しておきます。

会長

どうもありがとうございました。他にございますでしょうか。

委員

協議会での話ってことではないかもしれませんが、下関観光コンベンション協会が、4つの歴史体験プログラムを商品化したっていうニュースがありまして、この歴史博物館との絡みなり、今後の関係なりっていうのがあるのかどうか、ちょっとお尋ねしたかったんですけど。

会長

今回、観光コンベンション協会の方で、インバウンド対応として4つの商品化をしました。

1つはですね、下関酒造という酒蔵があるんですが、そこで、自分だけの

日本一の世界で1つしかないSAKE造りっていうのをやっています。これは、いちからお酒を作るわけではなくて、日本酒のブレndィングなんですね。下関酒造さんは、とにかく皆さんに、日本酒を飲んでいただきたいという思いから、自信のある4銘柄をまぜながら、自分独自の酒を作る体験を提供されています。自分でブレndィングした日本酒の4合瓶を一本作って、そこに名前を入れて、お持ち帰りいただくということですね。

こういうのを、最初、日本人向けにやってたんですけど、これは外国人に非常に受けるということで、それを今、多言語化をしたりということをやって、この体験をセットで幾らですよという商品化をしました。こういうのがですね、今現在4つあります。

これと同じように、歴史博物館とも、将来的には何かできるのかなと思います。ここに外国人が来たら、何か体験できるものがあるって、それが幾らかというお値段を取っていただけるようなものっていうのは、今からできるかなと思いますので、これからは是非一緒にやっていきたいと思っています。美術館も同じような感じで。

ちょっと観光の話なんですけど、今、1つの観光地に結構長い間の滞在が増え、2泊3日とか3泊4日で滞在する人たちも増えてきて、レンタカーを借りて、自分で回るっていう方もいらっしゃるし、公共交通機関をじっくり調べて、観に行くっていう方もいらっしゃるの、少し観光のスタイルが変わってきたのかなというふうに思います。そういう意味では、長府っていう町は、団体が確かに無くなってきてるんですけど、個別でたくさんの方が来られるのかなと思っておりまして、ある程度は期待していいのかなと。

ただ、やはり何かの手を打たないと、何か知っていただかないと、なかなか難しいところです。長府に来て、歴史博物館に来ていただくのか、ある意味、歴史博物館が目的で長府に行くのかっていうところで、少しいろんなアイデアを出していただいて、いろんなところで考えていけば、また長府っていうのは復活するのかなという期待を持って見ております。まさに、本物があるっていうことは、素晴らしいことですからね。外国の方も、特にフランスの方なんかは本物っていうものを、ものすごく観たいという方がいらっしゃるの、欧米の方が増えてくると、かなり長府にもいらっしゃるんじゃないかなと。

他にございますでしょうか。

では、引き続いて私からなんですけど、前もちょっと発言したと思うんですけど、昔に比べると、学校の皆さんが結構来ていただくようになりましたよ

ね。いろんな方たちが、子供のうちに原体験で、まずここに来るという体験をしていただくということになれば、将来的には、あそこ行ったなっていうふうになって、また来る可能性も非常に高いんですけど。

一番大きな問題は、下関市民の中で、大人がどれだけ来てたかってことを思ったりもします。意外と歴史博物館あるっていうのは知ってるんですけど、来たことがないっていうのが、結構多かったりするんですよ。だから、そこをどう来るかと、例えば、まちづくり協議会とか連合自治会といった会合で、ここに来る流れを作るとかですね。

委員

親よりも、子供が行こうって言ったりしたら、来るかもしれない。だから、学校の遠足だとか何かで散策でもいいですけど、常に利用してもらって、歴史博物館が良かったになって、お母さん行こうって言うようになるというなと思います。

会長

そうですね。施設はね、歴史博物館だけじゃなくて、海響館もそうなんですよ。地元の人たちが、意外と行ったことが無いっていうのがあってですね。もう10年前ぐらいの話なんですけど、下関ロータリークラブで職場体験で海響館へ行って、50人ぐらいのメンバーなんですけど、海峡館に初めて来たって、半分ぐらいが手をあげましたから。やっぱり、その辺の意識を少し変えていくというか、団体の皆さんとか、そういった方たちに一度ここに足を運んでいただく、なんかそういう機会があればいいなあって思ってるんですよ。長府の人たちも、結構来てるんでしょうかね。ぜひ。皆さんで、ちょっと考えましょうね。

委員

昨日から、ひな祭りもありますので。

委員

やっぱり子供さんに来ていただこうと思ったら、わかりやすいつていうこと。大人の方たちが観ると素晴らしいなと思うけれど、小学校とか中学校の子供さんたちが興味を持って来られるのは、やっぱり、わかりやすく漫画で表現するとか、大変ですけど、わかりやすい表現で説明が書いてあるとか、そういうことがあれば、子供を連れて観に行こうかなっていうことも増えるんじゃないかなと思いますね。今、中年以上の人たちが、ほとんどですよ。

会長

イメージ的に、ここに来る人たちは、同じような人が来てるようなイメージがちょっとあるんですね。だから、あまり興味がない人が、ちょっと足を運んでもらう、下関市民の人たちが、1回来てもらおうということになれば、少し変わってくるのかなと思うんですけどね。結局、お客さんを連れて来たときに、観光客っていうか知り合いの人を連れて市内をどう回るかとなると、ほとんど唐戸市場で終わってしまってるので、ここまで来てもらうことで、1回来ると、ここがいいなと思ってくれると思うんですよ。だから、その最初の一步が、おそらくできてないところがあるんですね。

教育長

一応、教育委員会としては、市内の子供たち、特に、旧豊浦郡の子供たちがこちらに来て、こちらの子供たちが旧豊浦郡に行くという、そういうふうな取り組みを、今計画しています。

それから、中学生や小学生が歴史に直接触れるような取り組みを、今計画をしてますので、もうしばらくしたらきちんとお示しできるんじゃないかというところがございます。以上でございます。

会長

それと、歴史博物館が7年たって、10年目を1つの節目として、そこにいろんなものをどんだんぶつけていくか。大きなイベントを、是非何か考えていただければなと思います。

委員

夢がありますね。

会長

他に何かございませんでしょうか。ないようでございますので、以上で終了いたします。今日は、皆さんお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。それでは、事務局にお返しをいたします。

事務局

館長より謝意を延べ、博物館協議会の終了を告げる。